



小城市立歴史資料館 * 中林梧竹記念館だより

中林梧竹記念館 第1期収蔵品展 「梧竹をめぐる人々」開催中

記念館収蔵品展「梧竹をめぐる人々」を開催しています。中林梧竹書を中心に副島種臣の書7点を含む、多様な人々の書を展示しています。梧竹が交流のあった人物に贈った書など面白エピソードとともににお楽しみください。

◆期間 ～8月30日（日）

◆場所 中林梧竹記念館 常設展示室

◆観覧料 200円（大学生以下無料）



▲中林梧竹肖像



▲展示風景

「小城の刀剣展」開催中

歴史資料館が所蔵している刀剣の中から、小城藩お抱えの刀工 藤原忠国ふじわらただくにの作刀と、西小路鍋島家に伝来した脇指の2振りを展示しています。

◆期間 ～8月2日（日）

◆場所 歴史資料館 常設展示室

◆観覧料 無料



▲展示風景

おぎの歴史探検隊

天山、古くは「あまやま」「あめやま」と呼ばれました

「天山」は「てんざん」と読んで何の違和感もなく使っています。

その起源について天女が降臨した山だから「てんざん」だとか「弁財天」がまつられているから「てんざん」だとする説もあるようです。

しかし、書聖中林梧竹翁が佐賀に帰郷して読まれた歌には「あらうれし ふるさと近くなりにはけりくもまに見ゆる 小城のあめ山」とあります。

明治末期のころ読まれたものと思われるが、古くは「あめやま」と読まれていました。

「てんざん」という読み方が定着したのは昭和20年代になってからです。昭和初期には「てんざん」と「あめやま」の両方が使われたようですが、昭和23年ころ、当時はアメリカを中心とする連合軍、つまりGHQの指示で調査があったものと考えられ

ます。「てんざん」と「あめやま」のどちらにするかの問い合わせがあり「てんざん」のほうが採用され、以来「てんざん」との読み方が定着したようです。

それではなぜ「あめやま」と読まれたのでしょうか。晴気天山社入り口にかかる石橋の右手の柱に「天山橋」とあり、左には「あめやまばし」とあります。

古文書の写しに「阿方弥方と呼ぶべし」とあります。その後「あめやま」になまって変化したものと考えられ、「天山」の起源を探るヒントがあるようです。（続）

小城郷土史研究会/著



▲あめやまばし

❖開館時間 9時～17時 ❖休館日 毎週月曜日・祝日・8月11日（火）

【問合せ・申込み】歴史資料館 文化課（桜城館2階） 担当 下川・永田 ☎71・1132

小城市ホームページから 梧竹・歴史資料館・文化財 検索